

# 令和元年度第2回岡崎市水循環推進協議会 会議録

## 1 会議の日時

令和2年2月10日（月） 午後4時～午後5時30分

## 2 会議の場所

岡崎市役所西庁舎7階701会議室

## 3 議事内容

岡崎市水環境創造プランの改訂について（気候変動による水循環への影響）

- (1) 気候変動に対する国の動向
- (2) 本市の気候変動の予測
- (3) 本市プランへの反映について

## 4 出席委員及び欠席委員の氏名（五十音順・敬称略）

### (1) 出席委員

天野博、大島康司、皆瀬めぐみ、柏原美和子、片岡喜幸、神本崇、田川至、  
富永晃宏、長谷川明子、眞木宏哉、丸山泰男、谷地俊二、山口晴江

### (2) 欠席委員

井上隆信、黄木勝敏、蔵治光一郎、武田美恵

## 5 事務局職員の職氏名

環境部長 小早川稔、環境政策課長 加藤元、同課副課長 蜂須賀功、  
同課地球温暖化対策係係長 古瀬川英樹、同課環境施策係主任主査 森本徳恵、  
同課環境施策係技師 中根逸男

## 6 開会

## 7 挨拶

- (1) 環境部長挨拶
- (2) 会長挨拶

## 8 議事録署名委員の指名

会長が議事録署名人として眞木委員を指名した。

## 9 会議の公開

本日の会議を公開することとした。（傍聴者0名）

## 10 議事要旨

### (1) 気候変動に対する国の動向

議事について、資料1～7に基づき事務局が説明し、次の趣旨の意見、質疑応答がなされた。

意見、質疑応答

天野委員：

気候変動適応法の内容で、地域において地域気候変動適応センターの設置や広域協議会を組織するとあるが、どの程度の範囲での地域を意図しているのか。

事務局：

広域協議会は中部地方環境事務所が設置し本市も参画している。地域気候変動適応センターは県内では愛知県のみが設置している。法律上はすべての自治体に地域気候変動適応センターの設置の努力義務があるが他の自治体との共同設置も認められているので体制等も含めて検討段階である。

片岡委員：

知人から夏の猛暑によりコメの出来栄が悪くなっていると聞いている。

事務局：

気候変動が進行していくとコメの出来栄に影響が出る可能性を示したデータも出てきている。

富永委員：

岡崎市は地域気候変動適応計画を策定しているか、また数値目標があるか。

事務局：

本市では現在のところ地域気候変動適応計画を策定していないが、地球温暖化対策推進法に基づく岡崎市地球温暖化対策実行計画は策定している。この計画の中に適応の内容も一部は記載がある。数値目標は設定されていない。

### (2) 本市の気候変動の予測

議事について、資料8に基づき事務局が説明し、その後、次の趣旨の意見、質疑応答がなされた。

意見、質疑応答

谷地委員：

今後の適応策の推進について、どれぐらいでのスパンでの評価見直しをしていくのか。

事務局：

国等から情報が入る度に関係機関に展開する方針であるが今後地域気候変動適応計画を策定した場合は、別途で評価や見直しの方法についても検討していく。

谷地委員：

岡崎市環境部としてはどのような働きを担っていくのか。

事務局：

本市環境部としては適応策に対して具体的に実行できる施策が多くない。主で対策をする防災や保健等の部局に国等から提供された情報を整理した上で伝える情報提供役としての立場で関わっていく。

谷地委員：

RCP シナリオではどのようなパラメーターで評価しているものなのか。RCP シナリオは複数の予想モデルがあるが、現実的にどのモデルを目指すべきか決めた上でパラメーターを動かして、どれを改善すれば目標を達成できるかを検討し、目標達成が期待できるものに重点を置くといった手法が環境リスク学の分野では用いられる。

事務局：

国立環境研究所においても RCP シナリオも含め4つのシナリオを採用しておりそれぞれ使用するパラメーターが異なる。環境省からは予想モデルを紹介する際にはどのシナリオを用いているのか確認するように指示が出ている。それぞれ具体的にどのようなパラメーターを用いているかはすぐに紹介できないが注意して見ていきたい。

天野委員：

気候変動の影響によりオーストラリアで起きたような大規模な山火事が日本でも発生しないか懸念している。昨年豊田市では、山中での造成工事中にタバコの不始末が原因で大規模な山火事が発生した結果、1万平方メートル以上の森林が燃えてしまった。どのような気象条件で山火事のリスクが高まるのか、また気候変動によりそのような条件が整いやすくなるのかなどについても情報収集してほしい。

事務局：

オーストラリアのような内陸の乾燥地の森林火災と同様の火災が日本で起こるかは分からないが、落雷や竜巻などの異常気象を原因とする火災なども今後増えていく可能性はある。情報収集していきたい。

眞木委員：

昔はタバコの不始末や炭焼きが原因の山火事が多かったが最近は減少した、しかし異常気象が原因の火災は確かに心配される。大規模な山火事の場合、防火帯を作るなどの山中での対応が必要になるが、今はそうした作業のできる人が少ないという課題もある。

丸山委員：

RCP シナリオによる予想で海部郡の付近だけ降水量の将来予想の評価が違うがなぜこうなるのか。

事務局：

詳細な資料がないのでまた確認する。

(3) 本市プランへの反映について

議事について、資料9に基づき事務局が説明し、その後、次の趣旨の意見、質疑応答がなされた。

意見、質疑応答

長谷川委員：

重点施策案について緩和策についての記載がないのはなぜか。

事務局：

緩和策については岡崎市地球温暖化対策実行計画で計画を作成している。水に係るのは主に適応策の部分なので適応策に特化した記載にしている。

長谷川委員：

気候変動の話は抽象的になりがちで情報提供だけでは行動に繋げにくい、岡崎では何をすればいいのか1つでもいいので示して行ってほしい。

事務局：

今年1月に庁内会議を開催し関係課に具体的に何ができるか確認を依頼している最中である、その結果を基に具体的な行動を示していきたい。

長谷川委員：

温暖化だけではなく気候変動が問題である。温暖化という言葉が先行して浸透しているため誤解されるが、温暖化は気候変動の影響の一部であり他にも様々な問題がある。市民に説明する際には注意して言葉を使ってほしい。

事務局：

国際的には気候変動が主流である。注意していく。

山口委員：

庁内だけでなく各総代などにも展開して情報提供してほしい。

事務局：

地元の集まりに職員が行って説明する勉強会なども開催しているが、今後はよりこの問題が認知されるよう展開していきたい。

11 その他

委員から前回の会議内容について質問があった。

丸山委員：

前回の会議で乙川に余水吐がどこに設置されているかと質問した。後日吐出口の位置図を提供されたが図には雨水吐出口と記載されているがこういう言い方をするのか、また雨水吐出口から出る水に下水が混入していることはないのか。  
事務局：

下水道法を確認したが、施行令においては雨水吐と記載されている。通常の雨では汚水は混入しないが、大量の雨水が下水道に流入した際には下水が混ざった水が出ることもある。

その後事務局から次回の岡崎市水循環推進協議会の日程について、概ねの時期を伝えた。

## 12 閉会